



おおぞら 保育園 ● やまだあおい 山田碧海くん

運動会

保育園の運動会でリレーを走った時の様子を描いてくれた碧海くん(6歳)。「僕が走った白組が勝ったんだよ! 走るの大好き、気持ちいい!」と少し照れながらも、うれしそうに話してくれました。

ぼくの夢 Dream-92 わたしの夢



夢は…。 “サッカー選手”

照沼小学校5年 ● 照沼聖春

僕の夢はサッカー選手になることです。僕は6歳のころからスポーツ少年団でサッカーを習っています。最初のころは試合に出てもあまりボールに触れることができませんでした。毎日練習を続けていると得点を決められるようになってきました。

「パスを回し、ゴールを決めたら、みんなで喜び」というのがサッカーの魅力だと思います。中学校へ行っても高校に行っても、サッカーを続けたいです。そして、今は下位の「水戸ホーリーホック」に入り、J1昇格の原動力になりたいです。いいプレーをして、たくさんの得点を決め、サポーターと共に喜びや感動を分かち合いたいです。

その夢をかなえるために、少年団のコーチの話をよく聞いたり、プロのプレーを見たりして自分もいいプレーができるように練習を続けたいと思います。

わが家に待ちに待った天使が舞い降りてきた時、夫は私の隣で手を握って励ましてくれた。そして、生まれてきた優の顔を見て、胸がいっぱいになったのを見て、胸がいっぱいになったのを見ていた。「この寝顔を食べてしまいたい」。そう思った。あれからもう3年…。

だが、愛する私たちの天使は、なんと怪獣「優ゴン」に変身した。「優ゴン」は「いやいや」を連発し、顔を見ながらいたずらをする。顔はふかせてくれず、逃げ回る。ジャングジムの上でほえる娘…。共働きの私たち夫婦にとっては、まさに奮闘の毎日! お互いに時間差勤務で、一緒に休みを取れるのは月に3日ほど。そんな時間に追われる私たちを、娘は毎朝きちんと困らせてくれる。

それでも、食事も洗濯も保育園の送り迎えも、夫が協力してくるからこそ成り立っているのだと思う。私の仕事が忙しくなると、夫は「いいよ、大丈夫。俺がいる」と声を掛けてくれる。また、職場の上司は時間ぎりぎりに小走りで

出勤する私を「苦労さまです」と迎えてくれる。私はいったいどれだけの人に支えられているのだろうか。常に感謝の気持ちを持ってはいけないと思う。そして、優も怪獣の殻を少しずつ脱ぎ、お姉さんになろうとしている。二人目を授かり、お腹が大きくなってきた私を気遣い、起き上がる時には手を貸してくれる。私がお腹をさすっていると、「治れ治れ」と小さな手をかざしてくれる。「ママの大事な大事な優ちゃんがいるから大丈夫だよ」と頭をなでてくれたりもする。そんな優と一緒にいると、とても温かい気持ちになれる。

わが家の子育て奮戦記

表紙の「ひと」 深谷恵美子

